

支えあいマップづくりは目的ではなく、活動の始まりです

中萱区のマップづくり

三郷地域の中萱区はJR大系線中萱駅周辺に広がる住宅密集地と田畑が混在している地域で、約1、150世帯あります。

中萱区のマップづくりの特徴は、生活にかかわる情報を記載した地域支援マップと、要支援者の避難誘導を目的とした災害支援マップをそれぞれ別に作ったことにあります。地域支援マップでは、道祖神・文化財などのほか、保育園や公民館などの公共施設、避難場所や避難経路、防火水槽などの情報、また通学路など生活にかかわる情報を掲載しました。まず先に地域支援マップづくりに取り組んだことで、参加者の皆さんがマップづくりを面白いと思うようになり、その後、災害時に支援を必要とする人が見落とされないように配慮したマップを作りました。中心となった区長と民生委員を取材しました。

みんなのその気を持つことが良かったかな！

山田 和雄さん（中萱区長）

今年度作成した「災害時住民支えあいマップづくり」は、災害の時に困らないように、ご近所が支えあうきっかけをつくる良い機会となりました。マップづくりに参加した区の皆さんが、次第に「自分もやらなきゃ」という自覚が生まれてきたのも、なんとなく感じました。もし、マップづくりがなければ、今以上に地域の災害対応を考えることも無かったと思います。作成をきっかけに、地域の皆さんと顔の見える関係が生まれたことは大きな収穫です。中萱区では今後、役員が中心となり、避難所の設置や運営方法などを学ぶ災害図上訓練を予定しています。その後、自主防災組織全体で訓練する予定です。マップが完成したことで立ち止まらず、みんなのやる気をもう一歩前に進めたいと思います。



▲地域支援マップと災害支援マップがそれぞれ完成しました。（中萱区では、上記の名称で作成）

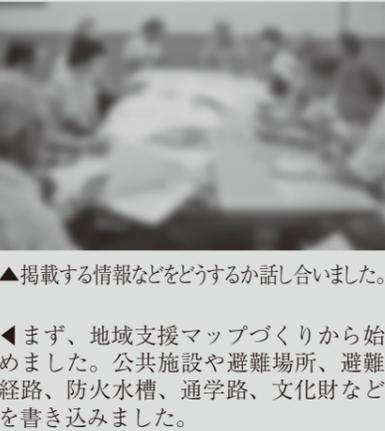
▼次に災害支援マップづくりを行いました。80歳以上の高齢者が暮らす世帯や障害などで、避難する時に支援を必要とする世帯を訪問しました。同意を得たうえで、地域支援マップとは別の災害支援マップに記載しました。



◀話し合いながら気が付くことをどんどん記載しました。



▼全体避難場所となっている「中萱公園」。地域内の避難所はこの他に9カ所あります。



▲掲載する情報などをどうするか話し合いました。

◀まず、地域支援マップづくりから始めました。公共施設や避難場所、避難経路、防火水槽、通学路、文化財などを書き込みました。



特集◎ 今考えてほしい防災のこと



▲地区内に11カ所所在している道祖神は住民の安全を守っています。

大事なのはご近所の支え合い

植野 和子さん（中萱区民生児童委員）

災害支援マップづくりは、まず聞き取りをして良いかを問う1次調査を行い、次に同意した人から緊急連絡先や支援の情報を伺う2次調査を行いました。それぞれの家庭を訪問してみて、いろいろな意見をいただきました。会議で仲間と話し合いを重ね、ようやく出来上がったマップです。しかし、いざ完成してまだまだ宿題が残されていると感じます。マップには、現在の80歳以上の一人暮らしや高齢者世帯で支援者が必要な人、また、その人を支援する人が記載されますが、人は毎年歳を重ねていくので、毎年書き足していく必要があります。また、マップを使った防災訓練も行ってみたいと思います。マップづくりで一番感じたのはご近所の大切さです。ご近所が支えあい助け合っていくことが何よりも大事なことです。

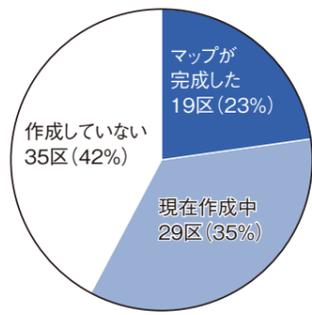


■災害時住民支えあいマップに関するお問い合わせ 堀金総合支所内危機管理室 (TEL 72・6769 FAX 72・6739)

現状 助け合いに効果あり 安否確認も迅速に！

災害時住民支えあいマップは、平成7年の阪神淡路大震災を教訓に数年前から全国的に取り組みが始まりました。市では、区、自主防災組織、民生児童委員会や社会福祉協議会など関係機関と連携し、災害時の助け合いや安否確認を迅速に行うことを目的とした「災害時住民支えあいマップ」の作成を推進しています。3月5日現在までに、市内の約半数以上の区がマップづくりに取り組み、うち19区でマップが完成しました。

災害時住民支えあいマップの状況 (市内83区 09. 3月5日現在 危機管理室集計)



質問 マップの活用方法を聞きました

Q 作る時のポイントは？

A マップづくりは、自分の住む地域の地図を囲みながら情報交換することで、地域の情報をみんなで共有することに意義があります。大勢の人が参加し、できれば支援の必要な人を交えて作るのが望ましいと言えます。

Q いざという時に役立つの？

A 支援が必要な人をどう避難させれば良いか、本当に話し合ったとおり避難誘導や安否確認ができるのか把握するのに有効です。また、このマップを活用して訓練をしておけば、災害時にも混乱なく動くことができます。

Q 更新は必要ですか？

A 毎年、更新していくことが大切です。マップづくりで出された地域の課題を、地域の人と一緒に歩きながら検証することをお勧めします。マップづくりの方法や内容は地域の実情で違っていてもかまいません。マップに記載するマークの色の統一と登録や希望者からの同意書をいただくことは、お願いします。訓練を通じて改善点を直していくことで、地域にあった情報や経験が積み重なっていきます。